令和元年度　第１回御殿場市総合教育会議

日時

令和元年８月２６日（月）午後１時３０分

場所

御殿場市役所東館２階　２０１、２０２、２０３会議室

出席者

御殿場市長	若林　洋平	教育長	勝亦　重夫
教育委員	勝又　英和	教育委員	佐藤　朋裕
教育委員	芹澤　えつ子	教育委員	大西　孝明
教育委員	勝又　綾子		

陪席者

教育部長	教育総務課長
学校教育課長	社会教育課長
学校給食課長	学校教育課参事
学校教育課課長補佐	学校給食課副参事
教育総務課副参事	教育総務課主任
教育総務課主事	

次第

１　開会
２　市長挨拶
３　教育長挨拶
４　協議事項
　⑴ 学校教育におけるスポーツについて
　⑵ 外国籍の児童生徒・保護者の支援について
５　閉会

1　開会

教育総務課長（進行）

本日はお忙しい中、総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。

定刻になりましたので、ただ今から令和元年度第１回総合教育会議を開催します。

全体進行につきましては、教育総務課の鎌野が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、初めに御殿場市長からご挨拶をお願い申し上げます。

2　市長挨拶

市長

皆様、改めましてこんにちは。

本日は令和元年度第１回総合教育会議ということで、委員の皆様におかれましては、お忙しい中お集り頂きありがとうございます。多くの傍聴の皆様のご来席いただきまして、ありがとうございます。

本日の新聞で、外国籍の方が非常に多くなってきているとの報道がありました。これは景気が良くなってきており、働く場所が増えたことにより、外国から労働者が戻ってきているということです。御殿場市においても、３．１１の際に非常に多くの外国籍の方が故郷に戻られており、人口が大きく減った要因でした。ここにきて例外なく御殿場市も、外国籍の方が増えてきていることは事実でございます。本日の議題の中で、「外国籍の児童生徒・保護者の支援について」とあり、どのように行政が対応していくべきか、一つの大きな課題でございます。

一方で、日本側はどうなのだということで、昨日「全日本少年少女言論大会」が御殿場市体育館で行われました。その中の話で、剣道はどうやってもオリンピック競技にはならないというお話がありました。その一番の理由は、日本人の持っている気合というか、単にポイントを採るのではなく、技を決めるまでの過程が大事であり、更には技を決めた後の残身を剣道は重んじているため、それをポイントだけでやることは困難であるためだそうです。書道も、空手もそうですが、まず気持ちが違うということです。師匠に対する感謝の気持ち、これに対する師匠の対応についても勝ち負けではない点に非常に感動します。日本の素晴らしさは道を想っている点にあると思います。これは、教育も同じなのではないかと思います。

教員には、教師であるということに自覚と誇りをもって頂きたいです。自覚の欠如が非常に恐ろしいです。特に教育の場面において、自覚の欠如により子ども達の信頼を失い、大人への信頼を失ってしまうことになります。それほどに、教育の現場は難しいのですが、だからこそ、教師が教師らしく教壇に立てる環境を整える非常に重要であって、皆様にもご理解とご協力を賜りたいと思います。

教育総務課長

ありがとうございました。続きまして、教育長よりご挨拶をお願い申し上げます。

3　教育長挨拶

教育長

改めまして皆様こんにちは。

昨今、教育の話題は色々な場面で聞かれております。マスコミの報道等色々ありますが、来年度から学習指導要領があると大きな動きがあります。同時に働き方改革、社会全体で日本人は働きすぎで、過労死の問題等色々とあります。その中で教員がクローズアップされており、ブラック企業のように取り扱われております。現場の教員は誇り持ちながら頑張っております。どのように働き方改革を進めていくかが、これからの教育の在り方、子ども達の教育をどのようにしていくかという二つの課題がございます。本日の議題の中でも含めながら、皆さまと議論できればと思います。

わずかな時間ではありますが、有意義な時間となればと思いますので、よろしくお願いいたします。

4　協議事項

（1）学校教育におけるスポーツについて

教育総務課長

教育長ありがとうございました。

本日のテーマは、（1）学校教育におけるスポーツについて、（2）外国籍の児童生徒・保護者の支援についての２点となります。

協議事項１について簡単にご説明いたします。来年度開催されるオリンピック・パラリンピックのホストタウンとなっている競技種目の授業での実施や部活動のあり方など様々なスポーツの話題をそれぞれの立場で意見を交わして頂きたいと思います。

協議事項２につきましては、外国人労働者の受け入れを拡大する新制度の導入を受けて、外国籍児童・生徒の転入が今後も増加すると考えられます。国際理解の深まり等のメリット、言葉がわからないことによるコミュニケーションの難しさ等のデメリット、いろいろな方向から市や地域ができる支援について、それぞれの立場で意見交換して頂きたいと思います。

それでは市長、よろしくお願いいたします。

市長

それでは、ここからは私の方で進行させて頂きます。先日、東京オリンピック・パラリンピックの空手競技の合宿地となっているイタリアへ行きました。イタリアの空手道をはじめとする格闘技連盟から、御殿場市の取組を是非聞きたいとのことで招待を受けました。講演を依頼されていたため、私は市民の皆様がどのように体育に関わっているかを紹介させて頂きました。イタリアの方が一番驚いていたのは、御殿場市内における体育館やグラウンドの数でした。一つの市でそんなに多くの施設があることに非常に興味を持たれていました。一市民一スポーツを推進していることについてもとても関心を持っていました。

同行した御殿場西高校の校長は、小中学校を含めた全体の授業数における体育の授業の割合を示して講演しておりました。イタリアにおいては、学校にプールがあることはあり得ず、グラウンド整備も満足なものではないとのことでした。幼少期におけるスポーツが脳の発達に非常に関わっているという研究があり、そういった面で御殿場市が呼ばれました。そういった意味では非常に興味深いものでした。

来年のオリンピック・パラリンピックは、市内全ての小中学生及び高校生に、でき

れば沿道で観戦して頂きたいと思っております。一つの教育の一環として、そういった場を設けて頂きたいなと思います。

また、現在の学習指導要領には「柔道」、「剣道」、「相撲」としか記されていないので、他の武道はどうなのかなと思います。

一方で、多忙化の問題にもつながりますが、土日の部活動についてはどうするのかについても議論できればと思います。外部講師による指導の可否についても考えていかなければならないと思います。

まずは、佐藤委員からお願いします。

佐藤委員

当市は真の子育て日本一を発信しており、子ども達を市民総がかりで支援し、生きる力の基礎を育て、本物の大人になって欲しいと願っているわけであります。学校教育におけるスポーツということですが、子どもの体力向上は言うまでもなく必要なものであります。子ども達を心身共に立派に成長させるためには、勉強とスポーツは時代を問わず必要な要素であります。伝統的に各学校でも継続されており、これからも学校教育におけるスポーツは重要であると考えます。来年のオリンピック・パラリンピックへの対応は様々な面で報道されております。スポーツの祭典であると同時に、文化の祭典でもあり、また世界中からの集客が見込まれることから、スポーツ・文化・経済の面で国を揚げて積極的に関わっているものであります。

話は変わりますが、今年も記録的な猛暑に苛まれました。昨年の総合教育会議において、子どもの安心安全のためのエアコンについて意見交換をし、共通認識をされ急遽、優先して組み込まれ本年度中に実現されると聞いております。市長と教育委員会の関係性が良いものであることからだと思っております。

さて、市長に２点お聞きしたいことがございます。１点目ですが、暑さ対策については、東京五輪も涼しい時間帯で競技する等の工夫がされております。御殿場市内の学校におけるスポーツ大会において、安心安全を優先することは重要であると思います。市長にもこのことについて御意見頂ければと思います。

２点目ですが、御殿場市の子ども達のスポーツにおける国際化について御意見頂きたいと思います。加えて秋のラグビー大会について、県では子ども達を無償で招待する等の報道もありました。先ほど市長よりお話しもありましたが、子ども達のスポーツ観戦につきましてもお話しを聞かせて頂きたいと思います。

市長

暑さ対策についてですが、運動会や体育祭等については、暑い時期を避ける等の対応を学校毎にしっかりとられていると思います。とにかく熱中症を出さないことを徹底することが非常に大事だと思います。その点、学校が運動会や体育祭において、体育館の開放や、水分補給の時間を作る等の工夫をされていることは非常に素晴らしいです。最近の高校野球、夏の甲子園なんかを見ていますと、球児は勿論、審判も給水時間をとって対応しております。こういったことを徹底することが大事だと思います。

また、暑さだけではなく急な天候の変化にも十分注意する必要があります。風でテントが舞って、子ども達がケガをするということがないように、なるべく早い段階での中止の決断も必要だと思います。定点での天候観測は非常に有効であり、早い段階での天候のチェックという点では、御殿場市はとても優れていると思っております。学校現場においても、そういったシステムをうまく活用して頂ければと思います。

２点目の国際交流を含めた子ども達のスポーツの向上や観戦についてですが、経験することが一番だと思います。今回のラグビーについても、行かれる子ども達も多いと思います。競技毎で観戦方法も異なると思います。先日、剣道の試合を見ていた時に、非常に興味深かったのですが、空手と違って声援はありません。勝ち負けではなく、競技に集中することが剣道の教えとのことで、選手の集中を周りが邪魔をしない、そういった観戦もあります。

子ども達にオリンピックを見てもらいたい理由は、スポーツに限った話ではありませんが、一流のものを見るということは子ども達にとって、大きな学びに繋がると考えるからです。自分の好きなスポーツだけではなく、色々なスポーツを生で観戦し、一流のものを肌で感じることは貴重な経験ですし、子ども達にそういった体験をさせていければなと思っております。

教育長お願いします。

教育長

先ほどのオリンピック・パラリンピックについてですが、日本で開催されることが一生に一度あるかないか、しかも自転車競技については御殿場を走るということで、小学生、中学生に記憶として残してもらえたらなと思っております。ただし、どのような日程で休みにするか等、学校の予定もありますので調整する必要はあります。個人的には、生で競技を観戦してもらいたいと思っております。

市長

教育長ありがとうございました。それでは勝又英和委員お願いします。

勝又英和委員

よろしくお願いいたします。学校での部活については、改めて言うまでもありませんが、成長期における子どもの体力づくりには大変有効であります。子どもの夢として、アスリートを目指したり、一流のプロの選手を目指すという子もいると思います。なかなか、部活だけの練習量でプロを目指すというのは難しい点もあると思いますが、部活を充実されるということは、子ども達のそういう夢を育てることに繋がると思います。ただし、部活を行うためには顧問の先生や監督、コーチ等の付き添いが必要なります。力を入れれば入れるほど、負担は大きくなります。以前から言われている教師の多忙化という問題からすれば、相反するものになってしまいます。なかなか結論がでるものではありませんが、教師の多忙化解消を考えながら、部活をより充実させていけるようなことができないかなと思います。

空手のイタリア代表チームの話がでましたが、８月のお盆過ぎに藤枝市におきまして、イタリアの柔道チームの強化合宿が実施され、御殿場市の柔道連盟の子ども達が見学に行ったそうです。今回はイタリアの空手チーム強化合宿が御殿場市で実施されて、今度は藤枝市の空手連盟の子ども達が御殿場市に見学にくるということで、相互に交流が図られるのではないかと思い、大変素晴らしいことだなと思います。是非、オリンピックが終わっても、他市とそういった交流をしていって欲しいと思います。

御殿場市は高原都市と言われております。アスリートの中には、高原での強化トレーニングをやられる方もおります。医学的には海抜が２１００メートルを超えますと、酸素飽和状態であったヘモグロビンが、急激に減少するそうです。人間の体は、非常に便利に出来ており、酸素の薄い状態にすぐに慣れるそうです。これを利用した高地でのトレーニング、心肺機能の強化をするそうです。これは夢のような話ですが、新五合目に広い駐車場になる箇所があります。夏場は富士登山の駐車場として利用されるので、それ以外の雪が降っていない間くらいは、開放してスポーツの強化合宿ができるような場になればなと思います。

市長

ありがとうございました。逆に私の方から委員にお聞きしたいのですが、部活動の充実化と教師の多忙化のジレンマを解消する策として、先生だけではなく外部講師を利用することについてはどうお考えですが。

勝又英和委員

外部講師の採用については、大賛成です。そういう方は、本格的に競技を勉強してこられていると思います。学校の先生が競技の勉強をしていないとうわけではありませんが、それ以上に知識を有している方がいらっしゃるのではないかと思います。

そういう方に、最低でも一年を通して指導してもらえればありがたいなと思います。しかし、完全ボランティアでお願いできるものなのか、それともある程度有償での契約となるのかという問題はありますが、外部講師に部活を監督して頂くことは教師の多忙化解消にも繋がるのではないかなと思います。

市長

ありがとうございます。教育長は、この問題についてはいかがですか。

教育長

外部教師の関係ですが、現在無償で講師として指導して頂いている方が各学校数名おります。文科省の方でも外部指導者ということで、高い賃金ではありませんが、有償での派遣の制度を作っております。平成３０年度でいうと、全国で７１００人程の予算があります。国が賃金の３分の１、県が３分の１、市が３分の１という割合で負担することになっております。もっとも、外部講師の人材がなかなか見つからないという現実もあります。御殿場市では、同制度を利用することも視野に入れながら、どのように外部講師を活用して教師の負担を軽減していくかを検討しているところです。

市長

ありがとうございます。あとは責任の問題がどうしても出てくると思います。その辺を上手くクリアできれば良いのではないかと思います。また、クラブチームとの兼ね合いも出てくるかなと思います。将来的にはもう少し踏み込んで協議していかなければならない問題だと思います。

現在、卓球やバドミントンが盛んになり、子ども達の選択するスポーツの幅が広がっています。男女問わず色んな事にチャレンジできる環境にあります。野球なんかは競技人口が減ったなどと言われておりますが、野球がダメということではなく、多種多様な選択肢が子ども達にはあるということです。これは、スポーツ以外でも言えます。現在ボーイスカウト・ガールスカウトが減ったといわれておりますが、決して魅

力がないという訳ではなく、子ども達は色々興味が湧いているということなのだと思います。民間で指導しているクラブチームとの兼ね合いも今後は重要なのではないでしょうか。

また、高地トレーニングに関しては、私も昔から新五合目の駐車場で何かできないかなという思いはありましたが、どうしても演習場の関係でなかなか難しい箇所です。ただ、選手たちは砂走を利用したりして活用しているみたいです。裾野市は市を揚げて取り組んでいるようですが、御殿場市も玉穂にそういった施設ができるので、この地を利用した基礎体力のトレーニング場所として御殿場市が活用されることは非常に良いことだと思います。

では、勝又綾子委員お願いいたします。

勝又綾子委員

武道のお話もでましたが、そういう礼に始まり礼に終わるという、日本人が大事にしてきた人間性に関わる重要なことについて、知識や経験のある方が、御殿場市の部活動にお力を貸していただける関係性が出来れば素晴らしいなと感じました。

私の孫の話になるのですが、私立の幼稚園では、幼稚園が終わった後に子ども達が好みそうな様々な体験教室を開いておりました。サッカーであったり、サイエンスであったりと多種多様でした。これは保護者と子どもの希望で、有償で対応してもらうのでした。小学校までは学校外での活動について、地域でも支援する体制がありました。ところが、中学校に入りますと、部活動があることもあり、地域の少年団はなくなり、そういった環境については学校にお任せというのが現状になるのかなと思います。先生方はとても真面目なので、部活における指導にも熱が入り、子ども達を勝たせてあげたい気持ちから、負担が増えていくのかなと思います。

子ども達も先生の熱意に応えたいという気持ちもあり、とても頑張っており、そういった姿というのは非常に掛け替えのないものだと思います。しかし、先生方の負担を考えると、子ども達のスポーツというものが、先生方への甘えになっている気もしないでもないです。部活動への外部講師の導入はとてもいいなと感じました。ボランティアで対応して頂いている方には頭が下がりますが、有償で対応される講師方の生活が成り立っていく制度になれば尚素晴らしいのではないかなと思います。

こういった制度を社会全体で支えていければ、先生方の多忙化も解消され、先生も本来業務に専念できるのではないかと思います。

市長

ありがとうございます。教員の多忙化解消は、今回の協議事項とは切り離すことのできない問題だと思います。お話を聞きながらひらめいたのですが、各学校のＯＢの

活用は非常に有効ではないかと思います。ただし、一番は制度をしっかりとしたものにしていくことです。責任の問題やセキュリティについて、学校の現場で考えて頂ければありがたいなと思います。

大西委員お願いいたします。

大西委員

昨年、元体操のお兄さんの講演でなるほどと思ったことがあります。運動とスポーツは別であり、運動とは走ったり、登ったり、体を動かすことを言いますが、スポーツは競技になります。なので、運動音痴という人はいないということです。

運動という点では、体育や運動会の中で基礎教育がされるのではないかと思います。部活になりますと、大会があり競い合う点があるため、スポーツに該当すると思います。部活を学校外ととらえるならば、外部講師を採用する道はあるのではないかなと思います。

私が働いていた会社では、十数年前から働き方改革として、業務の切り出しがされていて、どんどん外部委託をしていました。教師の多忙化を考慮すると、改革を早く進めるべきと思いました。

市長

貴重なご意見ありがとうございました。部活についての議論がかなり熱を持っている点を考慮すると、本腰を入れて検討していかねばという気持ちになりました。

それでは芹澤委員お願いします。

芹澤委員

保護者としましては、部活動については関心がございます。市内の中学校でも教員の多忙化を解消するためにも、朝部活を廃止するような学校も出ている状況です。中学生になりますと、部活を終え帰宅後にすぐに塾に通う生徒も多く、帰宅時間もかなり遅くなります。そこから学校宿題、入浴と子ども達も多忙な日々を送っております。少しでも長く睡眠をとらせてあげたいと感じている親御さんも多いと思います。私の子ども達が通う学校でも、今年度から朝部活がなくなったのですが、部活がなくなったことで、慌ただしかった朝に少しだけ余裕が生まれました。子ども達も以前より落ち着いて登校するようになったと感じております。しかし、冬場の放課後の部活動は３０分程度しかなく、物足りないと感じる生徒も少なくないようです。今後、朝部活を廃止する学校の増加も予測できますが、活動時間の短い冬の時期には、朝部活の時

間を設ける等、柔軟に対応して頂くことで部活動が更に実りのあるものになるのではないかと感じております。

外部指導員の導入についてですが、部活動指導員と外部指導員という位置づけあるようですが、この部活動指導員という立場での導入になりますと、引率をすることが出来るという点で、教員の多忙化解消にダイレクトに繋がるのではないかと思いました。市内の学校でも、外部講師の更なる充実によって、日々の先生方の負担軽減に加え、生徒への専門的指導も期待できます。先生と連携をとった指導員が加わることで生徒間のトラブルにも気づきやすくなるのではないかなと思います。

部活動を通して、子ども達は信頼関係や友情、自主性等多くのこと学ぶことが出来ていると感じておりますので、生徒と教員の双方にとって良い着地点を見つけられるよう期待しております。

市長

ありがとうございます。今お話しにありました、朝部活や朝の運動については、両方の意見があります。というのは、朝暗いうちから歩かせるのは危ない、もっとゆっくり寝かせたいなどの意見があります。一方では、練習時間が足りない、これでは勝てないという意見もあります。子ども達のお住まいによっては、学校までの距離がかなり遠く、本当に暗い中で登校する子どももいます。そういった点は考えていかなければならないなと思います。学校現場の現状を踏まえてきちんと検討しなければならない問題だと思います。

委員の皆様も非常に関心の高い協議事項でしたので、別の機会を設けて検討していくのも良いなと思います。よろしくお願いいたします。

（２）外国籍の児童生徒・保護者の支援について

市長

二番目の協議事項としましては、外国籍の児童生徒・保護者の支援について意見を交わしたいと思います。子ども達は柔軟に対応できているのではないかと思います。指導の先生方もいらっしゃいますし、とても頑張っていらっしゃいます。一方で、保護者の方は不安に感じていることもあるのではないかなと思います。この点も踏まえてご意見を頂ければありがたいと思います。

勝又綾子委員お願いします。

勝又綾子委員

市長のお話にもあったように、子ども達はとても受け入れる力をもっております。言葉につきましても、幼ければ幼いほど早く馴染んでいくと思います。

私はかつて家庭児童相談員をさせて頂いたことがあります。外国からいらっしゃった方の相談に乗ったこともありました。子育てで日本の生活に馴染みきれないということがあり、その結果子どもへの虐待の恐れがあるということで、幼稚園や保育園へ出かけて保護者と接触することもありました。その時に力になっていただけたのは、くらしの安全課の外国語を話せる相談員の方でした。現在は２名在籍しているとのことでした。その方が上手にお話をつないで下さり、非常に心強く感じました。

今後、中国から来日される方も増えてくることも考えると、そういった相談員の高齢化も問題になってくるのではないかと思います。状況に合わせて増員されると力強いなと感じております。

私が学校に在籍していた頃にくらべ、外国籍の児童・生徒は２倍以上の人数になるそうです。当時は南米の方が多く、日本人の善き生活習慣を日本人以上に取り入れており、挨拶もしっかりできるお子さんを受け入れた記憶がございます。当時は、外国語を話せる指導員がおり、授業外の時間で日本語の指導をされておりました。今後、ますます繊細な指導が必要となってきます。

日本語の読めない保護者については、学校からのお便りをどのように伝えていくのかが課題になると思います。私の時代は子どもが通訳の役をしてくれていました。

子どもは受け入れられて仲良くなりますが、大人は地域の中で孤立してしまいがちに思えます。同じ御殿場市民として、地域で交流を図っていく必要があるのではないかと思います。

市長

ありがとうございました。やはり、親御さんをどう考えるかは課題となってくると思います。子どもが通訳をするというのも、非常に素晴らしいと思います。そうはいっても日本の生活の中で、不安を抱えながら保護者が生活をしていって、子どもに良い影響があるはずがないです。これは学校の先生がどうこうではなく、御殿場市全体として、システムを考えようかなと思います。子ども達は今ある学校の指導員の数を増やしていくしかないと思います。現在の対応言語は、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語となっているのですが、やはり中国語なんかも考えていかないとと思います。その辺については、教育委員会との兼ね合いで何とかしていこうかなと思います。

親御さんは生活をしていかなければならないという点もあるので、保護者の語学力については、方法を考えます。国際交流協会もありますし、そういう保護者が日本語を覚えてもらえると、国際交流の活性化にも繋がります。お互いにウィンウィンになるように出来たらなと思います。

大西委員お願いいたします。

大西委員

８月１０日時点で、静岡新聞に掲載されていた「県・外国人雇用実態調査」という記事を読みました。防災情報を入手できる県のスマートアプリがあるのですが、

我が家は３年間アメリカでの駐在経験がありまして、その中で学校や幼稚園へ明日持っていく持ち物は何かということからスタートしました。同じ学校に通う日本人の奥さん同士で、2 年目、３年目の方から情報をもらったりしておりました。ネットワークを作るのは、同じ国の人同士の方が作りやすいです。

公共的な情報、例えば全体で動くような情報は防災アプリなんかでも良いと思いますが、同じ行動をする人たちで共有する必要があるような情報は、日本人同士のネットワークから得られた情報が有効であります。

学校なんかでは、同じ国の人たちを父兄に紹介する場を設けるなどの工夫がされておりました。身近なところで、身近な情報を素早く入手できる環境が重要だと思います。

また、赴任中に妻が病気で入院した時の話ですが、赴任中は日系人の先生がおられる病院に行っていたのですが、そこでは対応できない事態になり、アメリカ人医師の病院へ行きました。色々な話をするのですが、うまく伝わらない、聞き取れない状態でした。そこに、日系人の先生に来ていただき、通訳をして頂きました。いざという

時に対応できるネットワークがある環境整備が必要かなと思いました。

市長

非常に貴重な意見をありがとうございます。早速取り入れたいなと思いました。我々日本人が転勤なんかで急に海外で生活をすることとなった場合、家族なんかは非常に困惑すると思います。そういった状況で、同じ国籍の者でネットワークを作るというのは、非常に効果的だと思います。例えばリーダーを作るとかをすれば、何か困ったことが生じたときに、この人に相談すれば良いなということになり、不安が解消されるのではないかなと思います。各小中学校で取り組んでいただければありがたいなと思います。

教育長お願いします。

教育長

御殿場市の状況は、外国籍の児童・生徒が増えている傾向にあります。市内で一番多いのは朝日小学校になります。朝日小学校には県から外国籍対応の教員が派遣されています。もっとも、正確な数字は覚えておりませんが、指導員の派遣には外国籍の児童・生徒の人数が一定程度以上でなければなりません。この条件の緩和が必要だと思います。県や文科省に対して声をあげていく必要があると思います。

県派遣職員の不足する分を市の負担で、対応して頂いております。保護者の対応については、生活についての相談や翻訳対応等、様々な面で力になってくれています。しかし、この状況も人数の不足からかなり切迫していると考えます。これ以上、外国籍の方が増えると運用が困難になる状況です。

市長

ありがとうございます。職員が一人ひとりに説明するよりも、ネットワークを活用した取り組みが非常に重要になってくるのではないかと思います。

勝又英和委員お願いします。

勝又英和委員

大西委員からもお話がでましたが、明日学校へ持っていくものは何であるかとか、特別な行事はあるのかとか、学校からのお便りが基本的には日本語であると思います。これを、ちょっと大変だとは思いますが、保護者の方へお知らせしたい重要な内容については、相手が理解できるような文書でお渡しするべきではないかなと思いました。

外国籍の方達が活用できるネットワークがあればいいなと思いますが、学校区や学

年の違いによって、お知らせの内容は異なると思います。外国籍の保護者にわかりやすいお知らせが出来れば一番良いなと思いました。

学校では、児童・生徒は順応性が非常に高いので、子どもを介して親御さんとのコミュニケーションをとる場面は多いと思います。しかし、地域では外国籍の方はなかなかコミュニティに入れずにいる現状があります。こういった状況を地域住民が理解したうえで、外国籍の保護者の方へのお声がけをしていければいいなと思いました。

市長

ありがとうございます。自治区のなかでそういった取組も非常に重要だと思います。参考にさせて頂きます。
芹澤委員お願いします。

芹澤えつ子委員

同じ子供を持つ保護者として感じることは、異国の地で自分のことだけでも精一杯な状況で、病院や学校、言葉の通じる機関等、子育てに必要な情報を最優先で得なければならず、大変ご苦労されていると思います。

入学の手続きや、必要な用品の準備に必要な「読み・書き」は、通訳アプリでサポートできる「話す」こと以上に大変なことなのだと思います。入学後も頻繁に配布される学校からのお便りは、日本人である我々保護者にとっても、学校の情報を得るための大切なツールです。

入学や進学の際に、有力な情報やアドバイスを提供してくれるのは、心強い先輩ママの存在でした。同じように来日して間もない方々にとって、心強い存在は同じ母国出身の在住者だと思います。まず、自分の国のコミュニティを入手し易いように、御殿場市に転入した際に、積極的に情報提供をするのも一つの手段だと思います。

国際交流協会は、富士山教室という外国籍の児童・生徒のための補習教室を運営されております。現在、５４人が毎週土曜日に加えて、夏休みなどの長期休暇には月曜から土曜まで開催しているとのことです。日々、曖昧になってしまう学習面での疑問点や、学校での悩みを母国語で相談できたりすることは、深い学びや自信に繋がるのではないかなと思います。

また、子ども達だけではなく、保護者同士が交流することのできる貴重な場となると思います。今後も外国籍の方々の転入が増えることが予測されております。日本語が理解できないことで必要な情報が得られなかったり、文化や習慣の違いで地域に馴染めず、孤立してしまう人も出てしまうかもしれません。孤立することでますます日本に馴染む機関も減ってしまうとおもいますので、転入時の情報提供の重要さと、地

域の方々のご理解、ご協力を頂きながら、保護者が日本語を学んだり、日本の文化に触れる機会が増えていけばいいなと思います。

世界共通だと思いますが、保護者の精神面の安定が子どもにとって一番の安心に繋がると思います。

先ほどお話しにでた支援員の方が尽力されておりますが、対象児童・生徒の人数からみても、クラスの先生方のご負担も大きいと考えられます。また、日常会話が出来たから安心ということではなく、学年が上がることで新たに生じる問題もあります。５年１０年先を見据えて、更なるサポート体制の充実が重要だと感じました。

市長

貴重なご意見ありがとうございました。不安なことが生じた時に、言葉の壁によって施設を活用できないという状況は、普段から不安を感じさせてしまうと思います。

転入した際に、市の方から情報を提供することは、とても心強いと思います。ネットワークを作ってもらうことは非常に大切だと思います。そういう体制がしっかり根付くことが国際化なのだと思います。御殿場市に行けば、安心して過ごせるという状態になれば、外国籍の方々も増えてくるのではないかと思います。

佐藤委員お願いします。

佐藤委員

私の住んでいるところは、市街地から離れたところなので、外国籍の方もいないことから、切迫感を感じづらいのですが、外国籍労働者の人数が毎年記録を更新していることを鑑みると、静岡県の人口増についても外国籍の方に起因している事実を感じます。オリンピックが開催されることで、より一層拍車を掛けて、人口増加が見込まれるのかなと思います。

各委員の意見につきましては、まったく同感であります。異国で生まれて、異なる文化の中に、児童・生徒の意思にかかわらず、突然に日本に馴染まなければならないことはとても大変だと思います。また、日本語ができないためにコミュニケーションが取れない保護者に対しては、理解しあえる場を提供することは非常に重要なことだと感じました。

御殿場市内の学校が、きめ細やかな対応をするには、言葉だけでなく、学習支援や生活のサポート、保護者との意思疎通を図ることが大切だと思います。

ものの見方や、考え方、生活習慣や価値観の違いを克服することは、並大抵のことではありません。幅広い支援が要求され、とても困難なものです。しかしながら、こ

の取り組みは着実に前に進めなければなりません。事務局が頂いた資料には、市内の外国籍の児童は８１人、生徒は４２人、これに対し指導員数は３人ということで、数字を見るだけでも満足な効果が得られていないのではないかと思います。端的に、指導員数の増員が必要なのだと思いますが、学校現場や地域の声をあげて、お互いに課題を共有することが重要なのだと思います。

いずれにしても、日本語の習得、学校への適応を推進し、授業についていけるようにしなければ意味がないと思います。

住みやすい環境で暮らすことは、誰しもが望む共通の意思であると思います。

市長

三人の指導員の方たちは非常に頑張ってくれておりますが、手厚い体制とは言えない状況です。教育現場とは別のところで、日本語の指導は必要であると思います。保護者の方たちも、子ども達と一緒に学んでいってくれればと思います。

転入時が一番重要であり、指導員の増員に関しても対応していくことが市の責務であると思っております。

本日の協議事項に関しましては、引き続き教育委員の皆様、学校現場の先生方、教育委員会と話をしていければなと思います。

最後に教育長一言お願いします。

教育長

芹澤委員の意見で、５年後１０年後の先を見ながら進めていくというお話がありましたが、全くそのとおりで、私は中学校の教員を長くやっておりましたが、外国籍の生徒で一番の悩みは進学です。学力は十分ですが、保護者の収入の面で、生徒の夢がかなわなかった事実があり、非常に心を痛めております。学校のみではなく、様々な面で支援するシステムを構築していく必要があり、御殿場市の発展に繋がるものだと思います。

市長

言語のために学校へ行けなかったり、進学できなかったりといったことのないように、御殿場市として対応していきたいです。非常に参考になりました。ありがとうございました。

５　閉会

教育総務課長

市長、ありがとうございました。教育委員の皆様も、今後の参考となる貴重な意見をありがとうございました。本日皆様方よりいただきましたご意見につきましては、今後の教育委員会の運営、または市の運営に反映させられるように努めてまいりたいと思います。本日の協議については以上となります。

それでは市長、教育委員の皆様、長時間になるご協議、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、第１回総合教育会議を終了させていただきます。

午後３時１０分閉会